

## 大村卓一氏

### 満鐵副總裁 に就任さる



八田満鐵副總裁が遂に辭任して、關東軍交通監督部長として令名を馳せてゐた大村卓一氏が副總裁に就任された。八田氏は林總裁辭任當時、松岡總裁の就任と同時に辭任される腹案であつたと傳へられるが、適當なる後任者の決定を見なかつたので、今日迄延引してゐたものと見られてゐる。

八田氏が昭和7年副總裁になられて以來、満鐵の爲に盡された功績には甚大なものがある。當時世界の眼は一齊に滿洲に注がれてゐたが、氏は溫厚なる林總裁の下に於て、よく内外の難關を切り抜け、大満鐵の礎を益々強固ならしめたのである。その苦心の程は恐らく總裁以上に容易ならぬものがあつたであらうと思はれる。

×

八田氏の後をうけて副總裁の要職に就かれた大村氏は廣井博士の後進で、札幌農學校土木科（今の北海道帝大の前身）を卒業後國鐵に入り、札幌鐵道局工務課長、札幌鐵道管理

局長心得、鐵道監察官等に歴任し、つとに令名を馳せ、シベリヤ鐵道監理官として手腕を發揮し、次で支那政府交通部顧問として招聘され、膠濟鐵路の運営を主宰し、大正14年朝鮮總督府鐵道局長となり、更に關東軍交通監督部長に轉じ、鮮滿、シベリヤ、支那等の東亞鐵道の大局に通ずる權威者として斯界に重きを爲す人である。

關東軍交通監督部長としての大村氏は、滿洲國鐵及滿鐵の指導監督及連絡に努力し、公正なる人格者として軍部及滿鐵幹部より尊敬され、松岡總裁を扶けて滿鐵の強化進展を圖るべく最適任者として歓迎されてゐる。また滿洲國の要人も大村氏の人物に敬服しつゝあり、官民の德望厚きものがあるので、氏を副總裁として得たる滿鐵の事業は、今後益々圓滑に運び、基礎は益々強化せられるであらう。我等は茲にひとり滿鐵の爲ばかりでなく皇國の爲にも友邦の爲にも氏の健康と活動を祈つて止まない次第だ。